



だより



R6.5.14 Vol.6

チラ見

真穴小の校長室。私が座る机は廊下と正対しており、廊下を通る児童がよく見えます。給食時間や授業の移動等で校長室前を通る児童を見ていると、必ずチラ見する子がいます。(まあまあ的人数…笑)

「なあに？」と話しかけると「何でもないです！」とその場を去ろうとする子もいますし、「ちょっと校長室入っていいですか？」と立ち止まる子もいます。「どうぞ！」と返すと、立ち去ろうとしていた子供までちゃっかり校長室に入ってきます。

「なんで飛行機あるんですか？」「忠八の飛行大会出ようと思って！」「なんでドキンちゃんがいるんですか？」「前の学校の先生にプレゼントしてもらったんよ！」「好きなんですか？」「うん！可愛くない？」「可愛いけど…性格悪いですよ…。」(その通り！)

「なあに？」と話しかければ、関わりは、なかったかもしれません。いろいろな関わりをこれからも大切にしていきたいなと思います。



何を叱りますか？

もし一つだけ選んで叱れと言われたら…

- ① コンビニで万引きした。
- ② 雨の日、友達の傘を黙って使った。
- ③ 授業中に席を立て遊んだ。
- ④ 三階のベランダの手すりにまたがって遊んだ。
- ⑤ 友達を無視した。
- ⑥ 友達に一方的に暴力をふるった。

一つ選ぶとしたら…私なら迷わず④です。皆さんはどうでしょうか？それぞれの答えがあると思います。成育歴、成育環境は、人によって千差万別です。子供もそうです。当然、その中で培われてきた価値観も然りですね。とはいえ、組織の長がきちんと考えを持たなければ、教員の指導もあやふやになります。命について取り返しのつかないかもしれない言動は、たとえ頭ごなしになろうが私は叱ります。職員にも伝えています。

もちろん、全て指導しますが、教師として、親として何を一番大事にするか、そのことをしっかり意識することで、指導や躾にメリハリがつく気がします。その中で子供たちも、何が一番大切なのか？学んでいくのではないのでしょうか。

四方山話真穴 ver. 其の六(隙間時間)

私にとって子供との触れ合いの機会となる登下校。雑談のひとつが私の密かな楽しみです。(腰を痛めて思うように行けていませんが…泣)

低学年との帰り道。小さい頃の話になりました。「校長先生の小さい時はどのくらいの身長やったの？」「校長先生？そうやね、このくらい！」と親指と人差し指で5センチくらいの大きさを作りました。「えー？えええー！うっそー！そんなに小さかったん？？」と大騒ぎ。「そうなんよ！やけん、家の人に踏みつぶされんように、『ここにおるよー！』っていつも大声出しよったんよ！」「あはは！そしたら階段も登り降り大変やったん？」「そうそう！毎日！よじ登りよったんよ！」「そうか！あ！そしたら普通の階段も校長先生にとったら、こんな高さやったんやね！」と道横にあるコンクリートの擁壁を指差して「本当！大変やー！」と大笑いでした。

まさか、本気にはしてないと思いますが、「もし、そうだったら！」と色々な想像をめぐらし、「あれも大変！これも大変！」と、どんどん話が広がっていきました。子供を引き渡すとき、お迎えの保護者の方が「話し声が、遠くの方からここまで聞こえていましたよ！」と話されていたので、大盛り上がりだったのでしょう。

しっかりと学力を身につけさせる。社会のルールや人との関わり方を学ばせる。それが私たち教員の仕事です。でも四角四面にそれだけではちょっと味気ない！ちょっとした隙間の時間にこんな取り留めのない与太話で笑い合ったり、冗談言ったり、バカ言ったり、そんな関わりもいいんじゃないかなあと思う新緑まばゆい今日この頃です。